

標 題 : Relative validity of semi-quantitative food-frequency questionnaire in an elderly Mediterranean population of Spain
スペインの高齢地中海沿岸住民における半定量食品頻度アンケートの相対的な妥当性

著 者 : J. D. Fernández-Ballart, et al. (スペイン ロビラ・イ・ビルジリ大学
医学・健康学部 予防医学・ヒト栄養科)

掲 載 誌 : Br. J. Nutr. 2010 Jun; 103(12): 1808–1816

要 旨 :

本研究の目的は、高い心臓血管系リスクの住民における地中海食事による心臓血管系疾患の一次予防のための臨床試験、PREDIMED 研究で使用した自己記入食品頻度アンケートの再現性および相対的な妥当性を評価することであった。

食品頻度アンケート(FFQ)を1年に2回実施して(FFQ1 および FFQ2)再現性を検証した。

4回の3日間食事記録(DR)を参照として用いて妥当性を検証した; そのために参加者は1年のうちに12日間にわたって食事摂取を記録した。

FFQにおける誤分類の程度も、FFQ2 および DR からの情報を比較する5段階の分割表によって評価した。

合計158人の男性と女性(55–80歳)に、研究期間中に食事習慣を変えないように要請した。

ピアソンの相関係数(r)で探索した食品群、エネルギーおよび栄養素の摂取についての再現性は0.50–0.82の範囲であり、クラス内相関係数は0.63から0.90の範囲であった。

FFQ2はDRよりも高いエネルギーおよび栄養素の摂取を報告する傾向であった。

食品群およびエネルギーと栄養素の摂取についてDRとの関連でFFQの妥当性指数は0.24から0.72の範囲(r)であり、クラス内相関係数の範囲は0.40と0.84の間であった。

食品群に関して68–83%の人々は両方の方法で同じまたは隣接した5段階であり、エネルギーおよび栄養素の摂取ではその数字が55–75%に低下した。

FFQ(食品頻度アンケート)測定は、他の追跡研究で使用されたFFQと同様に良い再現性および相対的な妥当性を有していると、我々は結論を出した。

キーワード : 妥当性、再現性、FFQ(食品頻度アンケート)、食事記録、地中海沿岸住民、PREDIMED 研究、スペイン
